

はじめに

昨年7月、「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコの世界遺産に登録され、以降大勢の人々が高野山や熊野の地を訪れ、地域の活性化にもつながっています。同時に、この文化遺産や自然景観の基盤をなす、きのくにの自然を良好な状態で維持していくかねばならない使命も負っていることになり、環境教育の重要性が増しています。

昨年は、全国的に地震や台風等自然災害の多い年でもありました。地震に関連して、本県では一昨年に「学校における防災教育指針」を出し、様々な取り組みを行うとともに、安政南海地震の「稻むらの火」を見直すなど、防災教育にも力を注いでいく必要があります。

また、先のIEAやOECの国際調査から、我が国の子どもたちの学力が低下傾向にあること、学ぶ意欲に乏しいことや読解力が弱いこと等が明らかになり、こうした状況を改善する施策とともに、教員の指導力向上も大きな課題となっています。

当教育研修センターは、こうした様々な教育課題に対応した研修と研究を充実させ、各学校が地域の実態に応じて主体的に創意工夫を凝らし特色ある学校づくりを行うための支援をしていく使命を持っています。このことは、我々が常に様々な課題に対応できる先導的な力量をつけていかなければならないことを意味し、そのためにも、所員それぞれが研究テーマを持ち、研究に取り組んで行くことが重要であると考えています。

「平成16年度 研究紀要」では、この1年間の所員研究の中から5編、新年度からスタートする「和歌山県教育センター学びの丘」の概要、30年を経過した長期研修員制度について等を掲載しました。これらの内容が、日々の教育実践の参考となり、本県教育の充実につながることを願うとともに、ご高覧のうえ皆様の忌憚のないご意見をいただければ幸いに存じます。

和歌山県教育研修センターは、「和歌山県教育センター学びの丘」として、この4月1日から田辺市新庄町へ移転・開所することになりました。新しいセンターには、カリキュラムセンター機能や環境教育情報センター機能等が付加されるとともに、紀南地方の生涯学習支援も行うことになっています。

教育センターの施設・設備も充実する中で、それらを有効に活用した様々な事業を展開するなど、これまでにも増して、学校と教職員を支える教育センターとして、所員が一丸となって取り組む所存ですので、皆様の一層のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

平成17年3月

和歌山県教育研修センター
所長 吉松 敏隆